

## 地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

### 【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市大白書地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人 しらさぎ福祉会
所在地	〒671-2216 姫路市飾西728-5
電話	079-267-3929
FAX	079-267-2615
ホームページURL	

### 【センターの案内】

センターまでの交通手段	最寄りの駅：JR姫新線の余部駅から徒歩10分
-------------	------------------------



【センターが所在する地域の特徴・特性】

大白書地域包括支援センターは姫路市飾西にある西市民センターの1階にあります。西市民センターは夢前川の西側にあり、一戸建ての住宅街の中にあります。緑豊かで静かな場所です。ふれあい事業が活発に実施されています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

大白書地域包括支援センターは地域の高齢者様とご家族様の総合相談窓口として親しみやすい雰囲気作りに配慮しています。また担当校区の関係機関との連携を図り地域の情報を把握することに努めています。

【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

- ・高齢者が地域で元気に生活している。
- ・一人ひとりができることを地域の中で実現して、世代を越えて助けあうことができる。
- ・地域住民が認知症の知識を持ち、理解して接することができる。

## 地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	姫路市大白書地域包括支援センター
実地調査日時	令和3年10月13日

### 【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

担当地域が広範囲で地域との連携も難しい中、担当地区の関係機関との連携を図りながら、24時間相談を受け付ける体制を作り多くの相談に対応しようと心がけている。西市民センターの1階西保健福祉サービスセンター内に併設されている事も立ち寄り易く、職員も日頃から挨拶を大切にしている事から、地域で出会った時に気軽に声をかけてもらえている。家庭で孤立してしまいがちな男性介護者のやすらぎの居場所として、男性介護者の会を行うなど、つどいの場を毎月開催している。季節ごとに発行している「ほうかつ新聞」はイラストや写真が多く取り入れられており、わかりやすい文言で最新の情報が得られる内容である。

### 【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

玄関前の案内看板が小さめでわかりづらいため、もう少し大きいものがあれば戸惑いなくわかりやすいと思われる。現状、社会福祉士が欠員のため、現在募集中の社会福祉士が入職し、地域で支える体制づくりや認知症見守り体制の意識拡大、権利擁護についての周知などになお一層取り組まれることを期待する。地域の方との協力体制構築には、日頃取り組んでいる信頼を得るための地道な活動にあわせて、社会福祉協議会や地域資源などにも必要があれば働きかけることも必要だと思われる。

### 【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

案内看板については、これまでも西市民センター入口と西保健福祉サービスセンターの入口に姫路市大白書地域包括支援センターの案内を表示するなど改善工夫を行ってきました。今後は地域の人の目にとまりやすく、よりわかり易い案内表示の手段検討を行います。又、地域の皆様に親しまれ相談しやすい雰囲気づくりのために、職員の相談対応技術の質の向上に努めるとともに相談窓口の整理整頓、各種相談チラシの整理整頓に努めます。地域包括ケアの充実のために地域を支える体制および専門性の向上に努めるとともに関係機関をはじめ幅広い地域資源との連携強化を図りたい。

### 【備考・その他】

評価項目・着眼点		基本目標1:生きがいを感じながら暮らすための支援の充実	
		(基本的な考え方) 人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。	
		①	介護予防に関する認識の变革
			85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。 市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。
②	高齢者が通える場があるまちづくり		
	介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。		
センター記入欄	取り組みの状況	いきいき百歳体操16か所、ふれあい食事会、ふれあい喫茶、認知症サロン4か所、公民館講座へ参加している。	
	現在課題と感じていること	地域からの相談は以前より増えている。地域の会議に参加した際、地域の高齢者の困りごとや相談を受ける。しかし気軽に相談できる関係性は今後も構築する必要がある。 地域の老人会役員を主として高齢者の集いの場が開催されているが、集いの場へ自力での参加が難しくなると、外出しない高齢者が増えている。 長年居住し地域との関係性がある方は集いの場に参加をしやすいが、そうでない方は集いの場へ参加ができていない。	
	目標達成のための今後の取り組み	現在の地域活動の拠点(いきいき百歳体操、認知症サロン)の継続支援をしっかりとしたうえで、介護予防の普及啓発活動を公民館講座で続ける。ほうかつ新聞で地域の介護予防の取り組みを広報する。フレイル予防に関する記事を掲載し自覚を促す。	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	地域に溶け込むことを優先課題に位置づけ、信頼関係を構築するための広報手段として、地域包括支援センターの業務内容や地域で行われる講座やいきいき百歳体操などの必要な情報を網羅した「ほうかつ新聞」をA3用紙で発行し、地域自治会で回覧、施設での掲示に繋げている。気軽に相談しやすいように日ごろより挨拶を大切に実践している。	
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	地域での「いきいき百歳体操」開催箇所が減少傾向になっている。多くの方が協力し盛り上がった時期から数年の経過があるため、改めて目を向けていただくためにはアイデアも必要かと思われる。生活に役立つ内容を取り入れるなど、興味がある内容の検討や社会福祉協議会や地域資源にも再度目をむけ働きかけることも必要だと思われる。	

評価項目・着眼点	基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築	
	(基本的な考え方) 日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。	
	①	地域包括支援センターの運営 地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。
	②	地域包括支援センターの機能強化 地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。
センター記入欄	取り組みの状況	民生委員、金融機関、薬局、病院から地域包括支援センターへ相談があり、連携をとっているほか、通いの場や公民館講座などで地域包括支援センターの役割について周知を図っている。
	現在課題と感じていること	地域からの相談は以前より増えている。地域の会議に参加した際、地域の高齢者の困りごとや相談を受ける。しかし気軽に相談できる関係性は今後も構築する必要がある。 地域の老人会役員を主として高齢者の集いの場が開催されているが、集いの場へ自力での参加が難しくなると、外出しない高齢者が増えている。 長年居住し地域との関係性がある方は集いの場に参加をしやすいが、そうでない方は集いの場へ参加ができていない。
	目標達成のための今後の取り組み	地域の情報を民生委員や自治会長との連携を強化することで把握する。民生委員の会合に定期的に出席させていただく。ふれあい事業に参加したり、地域の行事に参加することで地域包括支援センターの存在を広める。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	「男性介護者のつどいの会」を約7年にわたり月1度開催し、日ごろの悩みやイライラした気持ちを吐き出せる機会、自由に参加でき安らげる居場所としている。実際に介護経験されたOBの方が経験をもとにアドバイスをくれることもある。自治会に出向き地域包括支援センターの業務内容の説明を行うとともに、困っている方がいたら地域包括支援センターまで連絡をいただくなど身近にできることから協力をお願いしている。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	地域住民が生活する身近な場所に出向いて、相談が気軽にできる場所を開拓したいと考えているが、実現できない現状にある。困りごとの把握にも地域住民の理解や協力体制が欠かせない。信頼を得るためのアプローチに協力いただけるような役員会や場所と繋がりを持てるよう一歩ずつ前進いただきたい。

評価項目・着眼点	基本目標3: 地域で暮らし続けるための支援の充実	
	虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。	
	多様なサービスの活用	① 地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用して、虚弱・軽度要介護高齢者の重度化予防・自立支援を図る。そのために、地域包括支援センターが担う取り組みや事業としては、地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などがあげられる。
センター記入欄	取り組みの状況	虚弱、軽度要介護者の重度化防止のためにふれあい給食、いきいき百歳体操、認知症サロンで参加者に呼びかけている。 (ほうかつ新聞を発行し介護予防の必要性に努めている)
	現在課題と感じていること	いきいき百歳体操の利用や公民館講座を利用している高齢者は自立している方が多いが、虚弱や認知機能低下になった高齢者は介護保険サービスの利用に抵抗がある方もおり重度化しやすくサービスに繋がり難い傾向がある。 いきいき百歳体操は広域的に広がっている。しかし実施主体によっては、町内居住者に限定するところもあり、希望のところにいけない高齢者もある。
	目標達成のための今後の取り組み	ほうかつ新聞を活用して啓発を行い身近な交流の場をつくることを提案します。どのような状態でも介護予防ができることを広報して、使えるサービスの提案をします。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	住み慣れた地域で安心して生活できるように介護保険制度や権利擁護などについて説明する機会を作っている。ほうかつ新聞にて情報が得られる体制がある。地区によって地域連携への協力体制に違いがあり悩んでいるところではあるが自治会役員、民生委員との繋がりを強化できるように務めている。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	協力体制構築には日頃取り組んでいる信頼を得るための地道な努力にあわせて、社会福祉協議会や地域資源にも再度目をむけたり必要があれば働きかけることも必要だと思われる。

評価項目・着眼点	<b>基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現</b>	
	認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防(認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする)に関する取り組みを推進します。	
	①	認知症にやさしい地域づくり 認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。
	②	認知症になるのを遅らせるための取り組み 高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。
センター記入欄	③	認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み 認知症の種類や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護に提供が出来るようになる。
	取り組みの状況	いきいき百歳体操、認知症サロンで認知症予防の講座を実施し、また広報誌でも認知症予防について取り上げた。
	現在課題と感じていること	病院、スーパー、金融機関などが遠く、生活に不自由を感じている高齢者も多い。集いの場への徒歩が難しくなると、外出しない高齢者が増えている。グループの後継者育成が課題と考える。 長年居住地との関係性がある方は集いの場に参加をしやすいが、そうでない方は集いの場へ参加ができていない。
評価調査者記入欄	目標達成のための今後の取り組み	ほうかつ新聞で認知症サロンの必要性を地域へ発信する。認知症予防のための交流ができる集いの場をできるかぎり身近なところに作る支援を行う。認知症サポーター養成講座を学校でも開催できるようにする。
	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	認知症について地域住民が考える機会として「いきいき百歳体操」や「自治会での催し」の開催時に認知症啓発活動も取り入れていただけよう働きかけている。認知症予防については比較的自分の問題と考え前向きに考えていただけの方が多し。認知症の方への対応方法については周知がされにくいいため、寸劇を通し楽しくわかりやすく認知症の方への対応方法を学ぶ機会を作った実績がある。
評価調査者記入欄	次のステップに向けた気づきや期待したい点	認知症予防への取り組みとして訪問活動を充実させることで「いきいき百歳体操」や「認知症サロン」を継続運営と新規立ち上げの支援をされ、認知症であっても地域で安心して生活できるように、相談事の把握や困りごとの情報収集の機会の場としても利用されるように期待したい。